

「雑巾がけ日本代表」V

4年ぶりの開催となった第21回東奥日報杯県カーリング大会（県カーリング協会主催、東奥日報社共催）は最終日の12日、青森市のみちぎんドリームスタジアムで決勝トーナメントを行った。予選リーグ各ブロックの1位同士で争う「ゴールド」グループ決勝は、青森南高校の2年生男子4人による「雑巾がけ日本代表」が、平均年齢78歳の「酒呑老子」を8-4で破り、初優勝を飾った。

雑巾がけ日本代表は、準決勝で中学生チームの「ビクトリーズ」と3-3の同点の末、ドロシヨットの差で粘り勝ち。決勝では第1エンド、平均年齢が約70歳離れた相手の経験豊富な戦略に苦戦し、2点を先制されたものの、第2、第3エンドをテイクアウトゲームに持ち込んで逆転した。



【写真上】「ゴールド」グループ決勝で「酒呑老子」を破り、初優勝を飾った「雑巾がけ日本代表」【同下】表彰式後に笑顔を見せる「雑巾がけ日本代表」の（左から）柳谷、金本、大庭、阿部—みちぎんドリームスタジアム



急造チーム一致団結

趣味でカーリングを業力で、あれよあれよと参加12チームの頂点に。まさか優勝するとは、と4人は口をそろえた。スキップ柳谷太晴（たはいせい）は登山部に所属し、リード阿部煌己（こおふし）はサッカー部。柳谷は2019年の県カーリング大会で準優勝するなど競技経験があり、部活動のオフシーズンを活用する形で実戦に復帰した。チームワークと抜群の集中

チーム名はメンバーのスイープの動きが雑巾がけに似ていたことに由来するという。予選から決勝までの対戦相手は経験豊富なチームが多く、接戦続き。何度も苦しい展開に追い込まれたが、試合の流れを

